

## 第6回岩見沢市子ども・子育て会議議事録

日時 平成27年1月28日(水) 18:00～19:30

場所 であえーる岩見沢3階 会議室1

### 1 開会

### 2 議事

#### 報告

- (1) 子ども・子育てプランのセミナー開催について
- (2) 子ども・子育てプラン答申について

#### 協議

- (1) 子ども・子育て支援法に基づく各種事業の量の見込みと確保策について
- (2) 子ども・子育てプランの構成、内容について

### 3 その他

- (1) 先進地の事例紹介について
- (2) 今後の予定について

### 4 閉会

- 出席者 <委員> 岩見沢市子ども・子育て会議委員8名  
<事務局> 子育て支援推進担当次長、子ども課長、子育て支援係長、子育て支援係、保育係主任、保育係

- 配布資料 資料1：子ども・子育て支援セミナーの記録  
資料2：子ども・子育て支援法に基づく各種事業の量の見込みと確保策について  
資料3：岩見沢市子ども・子育てプランの構成と内容について  
参考資料：人口減少の課題に対する先進事例等視察

事務局	1 開会 (18:00)  2 議事 配布資料について説明 追加資料報告事項 (1) 資料  (1) 子ども・子育てプランのセミナー開催について セミナーは11月15日午後2時～午後4時半に、岩見沢市教育研究所・小運動場で行われました。当日は、教育委員会事務局から子ども・子育てプラン骨子(案)
-----	--

	<p>の説明があり、講師を招いて「子どものこころの成長と子育て支援」について、ご講演をいただいています。スポーツ推進委員、子ども発達支援センター職員、緑陵高校教諭、市職員、あそび環境プロデューサーの5名による意見交換会が行われました。当日は120名の方々にご参加をいただきました。講演内容については、お手元に配布された資料の通りとなっておりますので、ご覧いただきたいと思ひます。</p>
委員F	<p>それでは報告事項（2）子ども・子育てプランの答申について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（2） 子ども・子育てプランの答申について</p> <p>資料はご用意しておりませんが、昨年11月10日に開催された第5回子ども・子育て会議において、ご協議いただきました子ども・子育て支援事業計画の答申について、昨年12月22日に市長室で会長より行っていただいておりますことをご報告いたします。</p>
委員F	<p>他にご意見がなければ、次に協議事項に移りたいと思ひます。協議事項（1）子ども・子育て支援法に基づく各種事業の量の見込みと確保策について、事務局のほうからご説明をいただきます。</p>
事務局	<p>（1） 子ども・子育て支援法に基づく各種事業の量の見込みと確保策について</p> <p>資料2をご覧ください。この資料については前回第5回会議でお示した確保策を基本としておりますが、前回資料と異なる点がござひますので、ご説明いたします。まず1点目は幼稚園における一時預かりの確保策の変更になります。資料右上の一時預かり事業、幼稚園における預かり保育の項目をご覧ください。前回お示した際には確保策がニーズ量を上回ることができず、平成31年度までに不足数の解消が図られない状況でした。市内の幼稚園6園にご協力いただき、直近の利用状況、あるいは定員の設定状況を確認した結果、年間の利用可能数は4万1千567人となり、平成30年度に不足数を解消できることとなっております。</p> <p>次に2点目ですが、栗沢地域の幼稚園、認可外保育園について変更箇所がござひます。資料左上の特定教育・保育の項目をご覧ください。この特定教育・保育の表については、アンケート調査から算出した各施設の利用希望者数に対して、それぞれの認定に対応する施設の数不足しているのか、充足しているのかを表したもので、栗沢地域ではすみれ幼稚園をこの表の1号認定の特定教育・保育施設、そして栗沢保育園を2号および3号のへき地保育所等として、定員確保策に計上しております。栗沢の2つの施設については、地域の子どもの人数の減少、施設の老朽化等により、両施設を統合して、新たに認定こども園を平成29年度</p>

	<p>から開所することを考えております。2点目の変更点はこの両施設の統合に伴うそれぞれの確保策を改めたものになります。なお、認定こども園の定員等について、詳細はまだ決まっていますが、プランを作成するにあたっては、幼稚園部分の利用者15人、保育所部分の利用者45人、総定員60人と想定しています。また保育所部分の45人の内訳としまして、2号認定が30人、3号認定の0歳が3人、1歳～2歳が12人としています。</p> <p>それではまず、1号認定のニーズと確保策のほうの、②確保策の特定教育・保育施設の項目をご覧ください。平成27年、28年度は70人となっておりますが、こちらはすみれ幼稚園の定員のため、平成29年度からは認定保育園の幼稚園部分の定員15人に変更しています。</p> <p>次に2号認定のニーズと確保策の表の②確保策の認定こども園の項目については、平成29年度から保育所部分の定員45人のうち、2号認定の定員30名分を記載しています。また、へき地保育所等の項目については、栗沢保育園の定員が36人計上されておりますので、こちらは29年度から除外しています。</p> <p>3号認定についても同様に平成29年度以降、認定こども園の定員を計上し、栗沢保育園の定員を除外しています。また、次の地域子ども・子育て支援事業のうち、時間外保育事業につきましては、認定こども園開設に伴い、29年度以降、保育所部分の定員45名を確保策に加えております。</p> <p>以上が協議事項(1)子ども・子育て支援法に基づく各種事業の量の見込みと確保策に関するご説明になります。</p>
委員F	<p>特にご質問等ないようですので、協議事項(2)のほうに移ります。子ども・子育てプランの構成、内容について、事務局からご説明いただきます。</p>
事務局	<p>(2) 子ども・子育てプランの構成、内容について</p> <p>資料3をご覧ください。現在作成中の子ども・子育てプランでございますが、まず最初に計画書を作成、完成させるまでの流れを冒頭にお示ししていきます。去る12月22日に、会議を代表して、平野会長より、市長宛に答申をいただいております。それをもとに現在、計画書の素案を作成中であります。2月中に計画書の素案をまとめ、3月上旬に委員の皆さまにお送りし、ご意見をいただきたいと考えております。その上で3月下旬に案の完成をと考えております。</p> <p>その下に、計画書の構成、計画書の大きくりの構成をお示ししてございます。計画書は大きく3つの部分で構成しようとしております。1つ目は子ども・子育て支援の現状はどうなっているのかという点です。2つ目は子ども・子育てのビジョンと視点、それらを踏まえた事業の展開の考え方でございます。3つ目は支援事業を展開していく上での区域の設定、ニーズ量の把握、ニーズ量を確保するための各種の支援事業となっております。そして最後に下の段にオレンジ色で塗りつぶしてありますが、これらの事業を実施する上での優先順位、推進体制、進</p>

捗状況の管理について、定期的にこの子ども・子育て会議の場で取り組んでいくという考え方でございます。

それでは、これらの計画のアウトラインを踏まえまして、計画書に盛り込みます事業の内容を章立てごとに簡単にご説明いたします。

まず第1章ですが、こちらでは計画策定の概要として、策定の趣旨、法的な位置づけ、関連計画などとの関係をまとめています。計画期間、策定後の検証体制についても明記していきます。

第2章では子ども・子育て施策の現状として、就学前児童数、小学校児童数の現状と推計、幼稚園、保育園、児童館や留守家庭児童対策の利用状況などを明らかにしていきます。さらには、次世代育成支援行動計画で位置付けました各種の事業の達成状況と今後の課題についても記載していきます。

第3章ですが、こちらでは今後の人口推計を踏まえまして、この度策定いたします子ども・子育て施策の目標、基本的な考え方、そして「安全」「安心」「笑顔」の視点から、ジャンルに分けて、各種の施策事業を整備していきます。

第4章では、具体的な事業でございますが、子ども・子育て支援法に定められた事項につきまして、一昨年12月に実施しました保護者を対象にしたニーズ調査の結果に基づきまして、量の見込み、それらの確保策についてまとめていきます。事業の区分といたしましては、幼児期の学校教育・保育、延長保育や放課後児童クラブを盛り込んだ地域子ども・子育て支援事業、その他市独自の記載項目となります。あそび環境の整備、あるいは療育事業などを考えています。また併せて次世代育成支援行動計画と一体的に計画するということになりましたので、次世代の計画から検証した子どもや母親の健康、子どもの教育環境や生活環境の整備、あるいは安全の確保などを盛り込むため、再度内容の確認をし、今後の方針を示していきます。資料の赤く描いてあります星印であります。この度の計画に新たに盛り込む事業となっております。

第5章ですが、こちらでは計画が確実に推進されるような、推進体制と進捗状況をその都度、検証評価できるよう、子ども・子育て会議の役割を確認しておきたいと考えております。

最後に資料として、これまで2カ年に渡り取り組んでまいりました計画策定の経緯、その根拠となった各種アンケート調査結果の概要、会議での審議経緯なども記載していこうと考えております。

以上が岩見沢市子ども・子育てプランの構成と内容でございます。繰り返しますが、これに基づき、計画書の素案を2月中に作成し、3月上旬に委員の皆さまにお送りし、改めてご意見をいただきたいと思いますと考えていますので、ご協力よろしくお願いたします。私からの説明は以上です。

委員F

これについては、ご意見がないようなので、その他に進み、先進地の事例紹介をしていただきたいと思います。

事務局	<p>それでは、先進地の事例紹介に移りたいと思います。人口減少は、現在全国的に喫緊に取り組まなければならない課題となっておりますが、独自の対策に取り組み、異例の効果をみせている自治体がございます。その中で今回は三重県名張市を視察してまいりましたので、その内容についてご紹介いたします。</p> <p>名張市は大阪都市圏から特急で約 60 分の距離にある、大阪や奈良、京都のベッドタウンとして発展いたしました。しかし、近年は利便性の高い他の市町村へ流れたり、退職した人が綺麗な空気を求めて移住してくることなどから、人口減少と高齢化が進んでいます。総人口は岩見沢市より少し少ないのですが、就学前と小学生の人口は岩見沢市と比べて多く、合計特殊出生率においては、平成 18 年度は同じ数値だったのが、平成 24 年度になると名張市は全国平均より高い数値に上がっています。それに対して岩見沢市はそれほど変わっていないという状況にありました。このような状況から名張市における何らかの対策が人口減少の歯止めとなっていることが、推察できます。そこで今回「名張版“ネウボラ”」という先進事例に着目しました。</p> <p>「ネウボラ」とはフィンランド語で「ネウボ」というのがアドバイスする、「ラ」が場所という意味で、つまりアドバイスする場所という意味をさします。フィンランドではどの自治体にも「ネウボラ」という子育て支援を行う施設があり、基本的には妊娠から出産、就学前まで切れ目なくサポートを提供するものです。その内容を日本とフィンランドで比較してみます。</p> <p>日本では妊娠がわかった時にまず足を運ぶのは病院です。その後、母子手帳をもらいに、自治体の窓口など必要に応じて様々な機関に足を運びます。出産後は小児科や保育園、幼稚園、保健センターや役所など数か所に及びます。</p> <p>これに対してフィンランドの「ネウボラ」では、妊娠の兆候があったら病院ではなく自分の地域の「ネウボラ」へ向かいます。検診は無料で、妊娠中は 6 回～11 回検診に通います。医療的なチェックだけではなく、妊婦の不安や悩み、家族の状況まで面談で細かに聞き取りをし、夫も何度か一緒に参加する必要があります。面談は個別に 1 回 30 分から 1 時間程度行われ、プライバシーの守られる部屋で毎回同じ、通称「ネウボラおばさん」という人と話をします。必要と判断されれば医療機関、自治体の担当者、児童施設などにつなぐこともあり、必要な情報も共有され、行った先で改めて一から説明ということはありません。</p> <p>出産は病院で行いますが、産後の子どもやお母さんの検診はネウボラを中心に行われ、必要に応じて医師が来ることもあります。日本では出産までは産婦人科、産後は小児科など検診に向かう先が変わりますが、フィンランドではネウボラでそのほとんどができます。また、歯科検診を受けたり、不安があればすぐに立ち寄って相談することもできます。医療面以外でも家族関係を含む生活面での相談、経済面、虐待リスクなど広い範囲に及びます。</p> <p>さらに特徴的なのは国から出産前の世帯に育児パッケージが無償で配布されます。それが右下にある写真になり、デザインをあしらったカラフルな段ボール</p>
-----	---

箱の中によだれかけとか布おむつ、肌着や服、防寒着など、実用的なアイテムが入っていて、段ボール箱はベビーベットの代わりにもなります。この育児パッケージか母親手当としての約2万円かどちらかを選ぶことができますが、ほとんどの人が育児パッケージを選ぶそうです。

続いて名張版ネウボラについて、実施に至る経緯をご説明いたします。名張市では福祉に重点を置く施策方針のもと、名張市で支援の手薄なところ、また強みを洗い出すために、ワールドカフェ形式で15地区と対話しました。その後、各地区に出向いて、自分たちでやりたいことなど、意見を収集しました。その結果、産前産後の支援が希薄であること、地域の絆が弱いという課題が浮き上がりました。この支援が手薄な部分を埋めるため、平成17年度から各地域の公民館に、まちの保健室を年次的に措置していきました。

まちの保健室にはチャイルドパートナーとして福祉職と看護職のプロが2名配置され、子どもから高齢者を対象に支援しています。住民と市役所の間にある身近な窓口、市役所よりも敷居の低い窓口として、子育てのことから家庭内の悩み相談、検診のことなど生活のありとあらゆることの相談場所となっています。人口減少や虐待が社会的に問題視されたことやこれらの課題に効果が見られたこと、またフィンランドのネウボラに似ていたことから、名張版ネウボラという呼び方となりました。

チャイルドパートナーは、地域の中で何か困りごとがあれば、必要な機関につながります。多くの方は子育てにストレスを感じていたり、悩みがあっても行政の窓口ではなかなか言いにくいですし、また自分の中だけでもやもやしたものになる方が多いと思うのですが、まちの保健室に来てしゃべっているうちに、その人のタイミングで話すことができ、チャイルドパートナーがしっかり話を聞いて、例えば相談者の了解のもとで、発達支援などの必要な支援につなげるというような寄り添うスタイルになっています。

まちの保健室は各地域内で構成されている支援ネットワークの中に組み込まれています。行政の窓口としてまちの保健室があり、社協、ボランティアやサークル、地域の自治会、民協、各医療機関や社会福祉法人が連携し合い、地域の支援につなげていくという仕組みになっています。

特に民生委員、児童委員さんとの連携が、とてもうまくいっているものがありまして、それが乳幼児全戸訪問事業というものです。これは生後4か月の乳児がいる全ての家庭を訪問し、情報提供やサービスにつなげる事業で、全国どこの自治体でも行っています。岩見沢市の場合は地域にいる在宅の助産師さんや保健師さんにお宅を訪問してもらっていますが、個人情報保護の問題もありまして、新生児の名簿を渡すことができません。名張市でも以前は名簿を欲しいという要望と渡せないという事情から押し問答になったことがあるのですが、民生委員児童委員協議会に事業を委託することで、協議会の範囲内で情報を渡すことができるようになりました。女性の主任児童員を中心に保健師と協力して訪問してもらっ

ていますが、委託することにより、自分の地域に居る子どもたちを把握できるようになり、民生委員の活動を推進することになりました。もともとの民生委員の地域の見守りという目的と乳幼児全戸訪問事業の子育て世帯の見守りという目的が一致していますので、同じ目的の事業をつなげることで、支援がうまくつなげるようになりました。

例えば虐待通報があった場合に、住民票がないお宅の場合ですと、市役所では把握することができません。その場合、まちの保健室を通じて地域の民生委員さんに問合せ、足を運んで実態を調べる前に住民票はないけれど、居住実態はあるといったスピーディな情報収集や対応ができるといったことや民生委員さんから逆にこういった心配があるんですと情報をいただいて、支援につなぐといったような連携プレイができるようになったそうです。

また高齢者支援の部分にふれますと、多くは健康や検診に関する相談になるのですが、名張市は地域内分権が進んでいまして、地区毎に福祉部ですとか防災部など様々な組織があり、地区それぞれの特色があります。特に高齢者の多い地域では、子育て支援を通じて介護予防していこうという発想があり、「子ども広場」という幼稚園に行く前の親子が集まる広場に、ボランティアとして多くの高齢者の方が参加しています。支援者の80%が65歳以上の高齢者という地区もあります。

各地区の子ども広場の活動の様子を写真に収めたものが名張市の子育てセンターにたくさん貼ってありましたので、ご紹介します。ちょっと見づらいかもしれませんが、どの広場もたくさんの親子や支援者が集まって活動していた。子ども広場は公民館で行われますので、広場にきた親子からボランティアの高齢者の方まで幅広い年代の方がまちの保健室に立ち寄るそうです。

自分が子どもの頃の学校の保健室というのを思い出しますと、気軽に行ける場所、また気軽に話せる先生がいる場所というイメージがありますが、まちの保健室はまさにそういうイメージ通りだなと感じました。

最後に名張版ネウボラのポイントとなる項目をまとめました。まず1つ目は地域の要望とマッチングした支援ができています。それというのも、最初に地域の方の意見を吸い上げて課題を洗い出したことによると思います。

2つ目は全国に必ずある公民館や必ずやらなければならない事業を利用していることです。新しいことをやるというよりは、既にあるものを利用して、連携を重視していました。

3つ目は子育て支援と高齢者支援を一体に考えた支援により、地域の絆が結ばれていることです。以上の3点がポイントとなる項目だと思います。

視察してきた感想としまして、ボランティアさんが子育て支援をすることで満足を感じ、チャイルドパートナーや保健師さんは支援がつながっていくのを実感したり、テレビ取材等で支援を受けている方が良いことを言ってくれるのを聞くと満足感を感じると話していました。支援する人とされる人の満足感がつな

	<p>っていくのが、まさに岩見沢市の子ども・子育て会議で目標としていたイメージに通じるものがあり、今後の子育て支援の参考にしたいと感じるまちでした。発表は以上です。</p>
委員 F	<p>はい、ありがとうございます。特別なすごいことをやっているのではなく、手堅くちゃんとやっている。人が大事なんですね。こういう人たちをどう活用していくかということでしょう。</p>
委員 J	<p>岩見沢市立病院では、12月の頭から未来の虐待防止委員会を立ち上げました。もう3ケース、全部、虐待じゃなくて養育困難家庭です。保健センターの担当の方に来ていただいて、虐待につながりそうなところをどうやって予防していくかっていう情報会議みたいなものを始めました。前も非公式にやってはいましたが。公式に始めました。今までよりも情報が流れやすくなったと思っています。</p>
委員 B	<p>報告いただいた内容でちょっと質問があるんですけど、最初にこれを視察しようとした理由として、合計特殊出生率がかなり上がっていているというのがありましたが、この原因という結局何がポイントだったとお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>いろんな施策をやられていると思うので、これが原因ですと、はっきりとはなかなか言えないと思いますが、その中でも特徴的な事業というのが名張版ネウボラだと思います。</p>
委員 F	<p>医療費の優遇とか、たくさん子どもを生むと支援の市町村からお金が出たり、財政的支援はどうなんですか？</p>
事務局	<p>何かお金を配るというよりは、まわりのサポートと連携していくっていう感じです。</p>
委員 F	<p>そうですか。それはいいですね。</p>
委員 I	<p>気軽に相談できるとか、サポート体制がすごくしっかりしているということを感じました。それから子育て支援と高齢者支援を合体させるって、これすごいことですね。</p> <p>ニーズ調査の結果の中で、お母さん方から支援の要望として、子育てに関する経済的支援がかなり大きなパーセンテージだったと思うんですね。そういうことを考えると、いろんなところにお金がかかっているのはわかるんですけども、育児パッケージのような目に見える経済的支援っていうのは、岩見沢市では何かされているのでしょうか。</p>

事務局	例えば、一人一人に現金なり、育児パッケージ的なものを配るというものについては、他のまちと比べて特別にやっていなくて、ブックスタートで本を配っているのが特徴的なところだと思います。
委員 I	旭川のほうだったかなと思うんですけども、そのまち自体に若者がたくさんいて、子育てをしている人達がかかりいっぱいいるまちがあるそうです。分譲で安い価格で土地を運営していくような土地があって、そういうような、思い切った施策っていうのはできないものなのかなって。広報でも、財政的に大変だっていうことが書いてあるので、難しいのかなと思いながら、真剣に人口減少とか考えるとそういうような思い切った施策も必要なかなって、ふと思いました。
委員 J	札幌に通勤して家を岩見沢に建ててるって人が近所に2軒、いらっしゃるのだけど、岩見沢市内でも田舎だと土地は高い方だけれども、札幌から比べると遥かに安い。子育ては岩見沢市で、父親だけ車で札幌まで通勤。朝7時くらいに出ていくんですよ。特にお金で優遇はなかったみたいですけど。通勤圏として選ばれたようです。
委員 I	札幌のベッドタウンみたいな感じですね。
委員 J	そういう人増えてくるといいなと思います。
委員 F	道外の人から見れば、通勤圏なんですよけれどね。
委員 J	JRで25分ってとんでもなく近い。
委員 D	私の身近な話なんですけれど、逆に雪のせいで離れたママ友だちを何組か知っています。目に見えた支援というよりもやはり雪の対策。いざ住んでみたら雪かきの仕方也不知道から毎日大げんかで、もうこれ以上続くと離婚するので、岩見沢からは離れるっていうご家族がいます。除雪も他のまちと比べれば、すごく岩見沢は綺麗にしているんだろうと思うのですけれども。
委員 L	札幌のまちは、もう中の方に行ったらすごいですよね。積雪でぐちゃぐちゃ。交差できなくて大変ですよ。
委員 J	岩見沢も中に入ると除雪が入らないってところ多いですよ。町内会でお金出して、ダンプを雇っているところ、出てきていますよね。
事務局	そういうことを考えると、一軒家ばかりじゃなくて、例えば子育てだったら集

	<p>合住宅で暮らしやすいところを考えるっていうような施策もいいのかもしれないですね。集合住宅で除雪はしなくてもいいということを考えるというのも、住宅の開発の中で検討してもいいのかなあとと思います。</p>
委員F	<p>あと高齢化が進んでいくと逆に手入れをするのが大変になってきて、澄みきれなくなることも起こるでしょう。だんだん世代が変わる中で、空き家も多くなるし、そういうところで若い家族を、住めるようにしていくとかね。いろんなアイデアをこれからやっていったらいいかもしれないですね。</p> <p>前も言ったけど、子どもの数はそうそう増えないので、外から持ってくるしか方法はない。奪い合いだと思います。そういうときに岩見沢市は何をするのか。</p> <p>反対に雪が使えるんじゃないかと思うのです。あと、大学があることは大きいです。そういう資源をどう活用しながら、まちの循環をつくっていくのか。ぼくはぜひ、大学は車で来ちゃダメにして、商店街を歩いて大学へ行けるような、システムができてくるといいな、と思っているんです。札幌から点と点のように来ている人が多いから。岩見沢来ても、行って帰るだけっていう方が多い。少しずつ変わったらいいなと思います。</p>
委員D	<p>お友だちがいないとか、その頼る人がいないっていう人が本当に多いんですよ。母親学級などを勧めてみても、それは出たくない、けど頼る人はいない。親も近くにいないってひきこもってしまうお母さんがすごく多いと感じたんです。</p> <p>私の小さい時は、どこの近所にもおせっかいなおじさんとかおばさんがいっぱいいました。あとは町内会の行事、例えば盆踊りとかそういう行事もいっぱいあったので、隣近所は誰が住んでいるのかだいたいわかりました。今は近所付き合いもあまりない人が多くて、どこに聞いていいかもわからないお母さんも多いようです。市に聞くにしても、それこそ敷居が高くてなんか聞きづらいというお母さんも多いので、やっぱりワンストップでこういうサポート、一回ちょっと気軽に聞けるようなサポートステーションみたいなところがあれば、いいと思います。よろずや相談っていうんですかね。</p>
委員J	<p>であえーるが子育てのワンストップの場所になればいいですね。</p>
委員D	<p>はい。本当にそういうワンストップのところがあれば。子育て以外のことで何でも聞けるような、話やすい場になるといいですね。</p>
事務局	<p>まさにここの3階4階、27年度工事が入りますけれども、そういう場所になることを目指して、あそび場所をつくるということです。行きやすさの要素として、あそび場を使って、あそび場に行くついでに、子育て相談ができるんだとか、</p>

	<p>ボランティアの方に声をかけていただくような形にしたいと考えています。</p> <p>名張市では地域ごとにたくさんのステーションがありますけれども、岩見沢はこの場所が、遊び場があることで、行きやすい、子どもが行きたがるからお母さんも足を運びやすいという場所になるようにつくっていききたいなと思っています。そこに保健センターの保健師さんたちがいるということが非常に大きな財産だと思いますので、そういった今の名張の利用のしやすさっていうものをこの中でつくっていききたいなと考えています。</p>
委員 F	<p>あともう1つは、先日、少年鑑別所の人と話した時に、子どもの非行は本当に減りました。かつてのギャングのような集団での犯罪は減り、単独犯が多い。その理由は何かというネット環境のせいだというのですよ。その半面で、子どもたちで群れをなして集団をつくって悪さをするっていう構造がとれなくなってきたんです。それはネットのおかげで、みんな家に居ても人とつながるんです。ゲームセンターにみんなが集まって悪い大人とつきあって、それで非行にいくなんていうお決まりのパターンは、今は絶滅危惧種です。</p>
委員 J	<p>逆にラインはずしの一面で不登校が増えています。</p>
委員 F	<p>フェイストゥフェイスで関わるどころからスタートするのではなくて、その代わりに、スマホを使ってヤフーかなんかで調べて足りる。もう1つの戦略として大事だなと思うのは、ネット環境の中で問いかけるところが近くにあることだと思います。つまり岩見沢市で何かアプリをつくって、こちらからそれを発信する。しかもその人たちが本当はそばにいるんだよっていうメッセージを出しているような形に持っていけないと、人間関係のつくり方自体がもう変わってきています。ここが拠点になるのは嬉しいんだけど、もう一方では、ここにくるのも大変な人たちが意外と多くいることも気づいていなければなりません。</p>
委員 J	<p>ここのそういったツイッター、ホームページをつくることですね。</p>
委員 F	<p>ツイッターでもいいかもしれません。それに対してできるだけ早いアクセスで答えられるような場所として、岩見沢市が地域の人たちにネットワークしていくという形をとっていかないと、箱はできても人は来ないということになります。しばらくすると、みんなどんどん来なくなりかねません。</p> <p>しかもやはり雪の問題があって、雪って、雪になるとバリアがやっぱり大きくなるので、来るのも大変っていう視点が必要になってきます。本当だったらフェイストゥフェイスが一番いいんだけど、フェイストゥフェイスで始まらない人間関係のつくり方って、これから主流になってくるので、どれだけフェイストゥフェイスに持っていく、いけるのかっていう発想でいかないと、せっかくいいも</p>

事務局	<p>のつくっているのに、なかなか難しいかなって思います。</p> <p>そういった点も工夫していきたいと思います。</p>
委員K	<p>それぞれみんな使いやすいようにって考えるのがいいと思います。例えば児童館なども、どうすれば利用者の利便性があがるのかですね。そういう建物をどうするとか運営コストをどうするとか以外に、利用の仕方をどうするかっていうのは、これから大きな課題になってくるのかなと思います。</p> <p>どうしても市でつくったものは画一的になるという批判は結構あるかと思うんですよね。そういうふうに見えるらしい。親の勝手な要望と必要な要望をどういうふうに分けるかっていうのはちょっと難しいんだけど、今までこれでやってきたんだから、これからもこれでいいんだっていうのではないと思うんです。</p> <p>時代が変わってくれば、親の意識も変わってくると思うし、塾だとか、部活だとかいろいろな習い事だとか、そういったものに通わせたいっていう要望はものすごくあります。児童館も行かせたい。これをどうリンクさせていくかっていう問題もあるので、今回こういうのは、議論にはなかったけれども、そういったいろいろなことも見ながら、皆が楽しく過ごすにはどうしたらいいか考えていけたらいいかなと思います。</p>
委員F	<p>今後、子どもが少なくなってきたら、皆に同じ場を提供するというよりも質的な要素が大事ですね。</p>
委員K	<p>もちろんそうするためには費用もかかります。いつまでも無料っていうことにこだわらないで、有料も考えながら、色々提供できるようなことも考えてないといけないのかなと思います。岩見沢よりもっと大きいまちではニーズもあるし、手伝える親がいるから色々できるけれども、この8万人くらいのまちで、どこまで民間ができるかという、多分、4万も5万もとらないとやっていけないと思います。でも、そういうニーズがあるということは確かです。塾も通わせたいし、部活もさせたいし、学童も行かせたいし、それから児童館にも通わせたいと色々なニーズがあるのですけれども、今のところは、全部に応えることはできない。それができるようになればいいのですが。財政の問題で消費税もちょっと見送りになったから、どういうふうになるかわからないけれども、岩見沢市単独ではできないかも知れません。</p>
委員E	<p>先ほどのお話じゃないですけど、保健推進員っていう人たちがいるんですけども、口からの情報が大切っていうことで、全戸に訪問に行ってくれていたんです。でもだんだん、皆から、ある程度高齢ということもあって、おばあちゃんに来てもらっても世話ができないとか、自分で調べるからもう来なくていいで</p>

	<p>す、という人が増えたのと、それこそ個人情報のこともあって、行ってもらわなくなったことを話を先の聞きながら思い出しました。電話相談でも、「インターネットで調べたら、こうやって出てくるんですけどもどうなのでしょう」ということもあったり、やはり今のお母さんは社会とネットにつながっていて、私たちがそこを利用しながらお母さんたちとうまくつながる方法を考えていかないといけないかなと思いました。</p>
<p>委員 L</p>	<p>やっぱり育てていく環境がずっと整っていかないといけません。例えば、今保育園なんかでも、おばあちゃんが岩見沢にいないで、朝の7時から夜の7時過ぎまで、ずーっと赤ちゃんを預けているご家庭もあります。赤ちゃんですから、やっぱり体力だけじゃなくてストレスもたまる。そういう子どもさんが結構今増えてきています。前とは違って、親が岩見沢から離れた職場で長時間就労していて、なかなか帰って来られない。おじいちゃんおばあちゃんが近くにいないという子どもって結構いるんです。それから休みになっても、どこにも連れて行ってもらえない子も結構いるんですね。</p> <p>障がいのことがわかっていればいいんですけど、時には3歳児検診を受診していなかったりしていて、記録がない。ところがだんだん大きくなってきて、どうもおかしいぞっていうことになっても、お母さんがなかなか連れて行かない。そういう子っていうのは、今結構増えてきているんです。保育園を卒園しても、あの子どもどうしているのかなって心配な子が結構、近年出てきています。安心してずーっと育ていけるような環境をどうやってつくってあげるか。岩見沢市だけじゃないんだろうと思います。</p>
<p>委員 F</p>	<p>先ほどD委員のお話に出ていた人は、きっと外の人たちから力を借りるってことに関して、あまりアイデアがないんだよね。話聞けば聞くほど、岩見沢市は災害地だなんて思う。日々災害が起こっているわけ、大雪で。だけど、これがなんで災害になっていないかっていうと、みんなが心づもりがあって、準備をされていて、腹くくって覚悟しているからです。また、そのおかげでいるんな人たちのネットワークをつくっていく人たちがこのまちに残っている気がします。</p> <p>でも、そういう地域のネットワークが切れちゃっている人たちが、ぼつぼつ出てきているっていうのが深刻で、多分、まだ東京よりはずっとずっとそういうことは進んでいないと思います。だから岩見沢はこの不便さ、雪という災害が使いどころだなと思っています。同じ雪が一日だけ東京で降ったら大変なことになります。何万人っていう人がいるし、もう病院はすぐにいっぱいになっちゃう。怪我する人がいます。だから何かこの不便さは逆に、地域づくりにはとても大事なところなんだって思います。結びつきのところに苦しんでいる人たちがいるし、命に関わるためです。</p> <p>では(2)にいけます。今後の予定について。</p>

事務局	<p>では、事務局から今後の予定についてお話させていただきます。まず今年度3月までに皆さんにお願いすることがあります。先ほど、岩見沢市子ども・子育てプランの構成と内容でもお話した通り、提案がまとまり次第、委員の皆さんに郵送させていただきます。その際に意見シートを同封しますので、ご意見がある場合は、シートにご記入いただき、事務局までお送りいただきたいと思います。その後、皆さまからのご意見を参考に意見案を修正し、最終版をまとめたいと考えています。</p> <p>次に来年度、平成27年度の予定です。委員の皆さんの任期は、2年、平成27年3月31日までとなっております。公募委員については、広報3月号で新たに募集する予定となっておりますので、公募委員お二人については、もし可能であれば、再度ご応募いただければと思います。その他の委員の皆さまにつきましては、人事異動や役員交代がない限り、引き続きお引き受けいただきたいと思いますので、新年度になりましたら、改めて各機関に推薦依頼をお送りいたしますので、よろしくお願いたします。</p> <p>平成27年度の会議は2回を予定しています。1回目は8月頃と考えております。平成27年度の事業の説明と次年度以降のこういった取り組みが必要ではないかというようなご意見をいただく予定でございます。2回目は2月～3月くらいに翌年度の事業について、予算の内示を受けて、こういった予定ですということをご説明したいと考えています。専門部会については、個別の協議が必要になった際に設置をいたします。現時点で設置の予定はございません。私からは以上でございます。</p>
委員F	<p>はい。ありがとうございます。委員の引き継ぎと全体会議が2回ということですが、何かこれについてご意見ありますか。</p>
委員J	<p>病児病後児保育がどういう形でスタートするのか、まだ知らされていないのですが、今聞いていいですか。</p>
事務局	<p>病児病後児保育については、今取り扱いの用紙ですとか、条例等の整備を行っておりますので、J委員には申し訳ないんですが、後日個別にまた相談させていただきますのと併せて医師会ともご相談させていただきたいと思っています。恐らく2月中に一度お話させていただくことになるかと思っておりますので、その際はよろしくお願いたします。</p>
委員J	<p>市民全体に情報が行き渡るのはいつですか。</p>
事務局	<p>議会終了後ということになりますので、3月末くらいに新聞報道と併せてお知らせをしていきたいと思っています。事業が始まりましたという呼びかけは、広</p>

	<p>報4月号に掲載したいと思います。その他ホームページ等でもPRしていきたいと思っております。</p>
委員F	<p>他にご意見なければ、これで終わりになるのですが、最後に委員の方々から一言ずつ、感想だとか今後の提言をお伺いして終わりにしたいと思います。それではK委員からお願いします。</p>
委員K	<p>こんなに広い話題を扱う思っていなかったもので、気楽に皆さんのご意見を伺おうかと思ってきましたすけれども、色々な話が出る中で、財政の問題もあるし、大変な中での5年計画だと思います。私の気になっているところはだいたい3年くらいで達成できるかなと資料から見られますので、これが無事、順調に進んでくれることを願っているだけです。</p>
委員I	<p>2年間やって、やっとう飲み込むことが出来てきたかなという感じがあります。計画に関わっていく中で、お母さんたちの要望しているところをちょっと意識して、情報収集するようなことも考えています。もしできればそんなところも生かしていきたいと考えています。</p>
委員E	<p>色々な側面から検討してきて、そういうところも考えなきゃいけないんだとか、ちょっと自分の仕事に振りかえることができ、ありがとうございました。またよろしくをお願いします。</p>
委員B	<p>これに参加するにあたって、ショートステイをぜひ実施していただきたいという思いがありました。今回計画に入れていただいて、協力しながら出来ることをやらせていただきたいと思っています。これをひとつの機会にして、やはり先ほどのワンストップサービスの事例も出ておりましたし、関係機関の連携がとても重要になると思うので、また引き続き、より一層の連携を深めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p>
委員D	<p>子ども・子育て会議に参加させていただいて、私自身大変勉強になりました。どうしようもない質問などを色々して、皆さまにご迷惑おかけしたことが多かったと思いますが、これからも引き続き皆さんと一緒により良い岩見沢をつくっていききたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
委員J	<p>ワンストップとかコンパクトシティとか、通勤圏とかっていう、子ども・子育てだけでない岩見沢市全体の考え方という点にもだいたいの意見が出ていたので、連携して同じ一つのビジョンの中の子育てになっていったらいいと思います。</p>

委員L	<p>これからの岩見沢市を支えていくのは子どもたちだと思います。これからの世代に関わる問題を討議させていただいたという意味ではとても勉強になりました。今後またお手伝いできることがあれば、がんばっていきたいと思います。ありがとうございました。</p>
委員F	<p>ここは本当にアットホームで、みなさんと「なんかこういうのができたらいいよね。」ってそれが提言施策になっていくような気がします。こういうのいいですね。やはりまちの大きさが8万人くらいって、そんなに悪くなくて、ちょうどいいというか。いいときはいいふうにまわるけど、うまくいかなくなると、とってもううまくいかなくなるというまちのサイズだと思います。いつも新陳代謝を繰り返しながら、何か大事なメッセージを出していけるような、まちづくりの流れがこういうところから生まれてきたらいいなって思います。これで終わりにしたいと思います。皆さんご協力ありがとうございました。あとは事務局にお戻しします。</p>
事務局	<p>大変難しい討議をしていただきまして、誠にありがとうございました。また、今後ともよろしく願いいたします。</p> <p>閉会（19：30）</p>